



郷間 康久 議員  
(フォーラム)

**下水道等使用料の  
統一化を**

**問** 現在、約2600世帯が、農業集落排水を利用し、使用料は、世帯割と人数割りを合算して決める定額制となっているが、公共下水道は、約18万4000世帯が利用し、使用料は、使用した水量に応じて決められる従量制がとられている。

一般的な4人家族の2か月分で使用料を比較した場合、公共下水道約6500円に対し、農業集落排水約8800円と1.35倍で、かなり割高になっており、利用者に不公平感をもたらしている。

**答** 23年度にこれらの管理体制がせつかく一元化されたのだから、他市の状況を参考に、料金体系もなるべく早い時期に統一化を図り、公平な料金制度に転換すべきと考えるが見解は。

農業集落排水処理施設の整備地域は、下水道へ

の未接続世帯が多く、流量計算が困難であるため、人員制を採用している。このような中、接続率が約83%にとどまり、対象面積が広い割に利用者が点在していることなどから、維持管理のための使用料が公共下水道に比べ割高となっている。

料金統一については、使用料収入の減少に加え、従量制の効果が一部にとどまるなどの課題があるため、今後とも現行制度を継続するが、従量制には節水意識の向上のメリットがあるので、他市の状況を調査するなど、研究していく。



▲農業集落排水処理施設

**その他の質問項目**

- ①市長の政治姿勢（職員の健康管理、資質向上、プライバシー保護、中心市街地のまちづくり、市民対話のあり方ほか）
- ②住民票等の第三者交付に対する本人通知制度
- ③平出工業団地における環境問題
- ④少年サッカークラブをめぐる課題
- ⑤公共福祉登記協会の活用
- ⑥鬼怒橋の保存



久保井 永三 議員  
(改革)

**上河内スマートICへの取り付け道路を新たに整備すべき**

**問** 上河内スマートインターチェンジへの取り付け道路は、複雑で迷路のような。また、案内標識も分かりにくいいため、地元住民でも戸惑う状況であり、地域外の利用者には、なおさらである。

上り線への道路を県道藤原線に、下り線への道路を県道小林線に取り付けられ、誰もが分かりやすく通行でき、利用が増え道路としての機能が向上し、地域の活性化にも役立つ。

そこで、上河内スマートインターチェンジへ、上り下りともに新たな取り付け道路を整備すべきと考えるがどうか。

**答** 現在の取り付け道路については、県、市および地元が一体となって協議を進めながら、既存道路を活用した整備を行ってきた。

新たな取り付け道路の整備については、用地買収が伴うなど費用対効果の観点から、現在の取り付け道路を利用することが好ましいと考える。

また、案内標識については、現在主要な道路に41か所設置されていることから、上河内スマートインターチェンジへの誘導は図られているものと考えらる。



▲上河内スマートインターチェンジへの取り付け道路

**その他の質問項目**

- ①避難所と避難所への誘導標識、災害対策
- ②放射能汚染と放射性物質を含む発生土の処分
- ③北部地域の施策（上河内東山霊園の増設計画ほか）
- ④企業の現状と公共工事におけるエコスラグや再生砂の活用
- ⑤農林業の活性化と空き店舗対策の競争事業



馬上 剛 議員  
(自民党)

**人や景観などに配慮した舗装を**

**問** 都心部の馬場通りや日野町通り、釜川沿いなどは、舗装が景観を損なわないよう、石畳（インターロッキングブロックなど）になつており、都会的かつ歴史観の際立つ舗装として市民に親しまれてきた。

しかし、近年は凸凹路面が数多く見受けられ、また、お年寄りや若い女性のケガも発生しており、決して人や自転車に優しい舗装とはいえない状況である。

宇都宮市の顔にふさわしく、都市景観と安心安全に配慮された都心部の舗装整備について、どのように考えているのか。

**答** 市では中心市街地の歩車道にインターロッキングブロックなどの舗装を行い、魅力ある都市空間の形成を図ってきた。

釜川・プロムナードやパンバ通りなどについては、車

両の乗り入れや老朽化などによるブロックの破損やがたつき、凹凸などが発生した箇所において、部分的に修繕を行ってきたが、歩行者などから、「歩きづらい」「景観を損ねる」との意見も寄せられている。

歩行者や自転車が安心して通行でき、誰もが集える都市空間を創出できる、快適な道路環境が必要であると考えており、今後の道路改修では、地元自治会や商店街などの意見を聞きながら、「歩いて楽しいまち」の実現に向け取り組んでいく。



▲路面の凹凸が目立つ道路

**その他の質問項目**

- ①市長の政治姿勢（3期目の市政運営ほか）
- ②中心市街地への取り組み（中心市街地における公共交通ネットワークほか）
- ③地域の実情にあつたまちづくり（地域まちづくり計画ほか）
- ④教育政策（心の教育の推進ほか）
- ⑤重度心身障がい者支援
- ⑥再生可能エネルギー（釜川における小水力発電）

※インターロッキングブロック…道路などの舗装に使うコンクリートなどのブロック